

【検温と状態の把握】

どのような状況で発熱したのか、を記録（報告）します。

「〇〇をしていたら緊張が強くなったので検温。38.0℃」など。

ムセ込みの直後、排便後、入浴後、食後、大笑いの後などは体温が上がりやすいので、少し落ち着いてから再び検温します。

【姿勢】 ベッド（布団）で横になる

※車いすで注入中は、注入をいったん中止し、ベッドへ移乗する

【服装】 場所によって、出来るだけ涼しい恰好にする。

上は下着 1 枚、ズボンは自室であれば脱いで、オムツ+バスタオルなど。

【クーリング】 太い動脈が流れている所（首、鼠径部、脇）を冷やすのが効果的です。

※脇にアイスノンを固定するのは難しいので、①首②鼠径③頭のクーリングが優先。

【室温調整】 部屋が暑ければ体温も上がります。必要に応じて冷暖房を調節します。

夏なら冷房を入れる。冬なら床暖や暖房が効きすぎているか確認する。

【坐薬】 発熱時（38.0℃～38.5℃以上が目安）に使用

ダイアップ坐薬：緊張が強い→発熱

アンヒバ坐薬：発熱→緊張

※多くの場合は緊張からの発熱ですので、ダイアップを使うことが多いです。

【服薬】 明らかな緊張と発熱の場合は坐薬が第 1 選択です。

カロナール：上記対策の後でも体温が下がらない場合に服用します。

体温の目安は 37.5℃以上～38.0℃

【シャワー浴】

緊張がおさまり、発熱のピークが過ぎたのであれば、シャワーで汗を流してもらえると、さらに解熱する場合があります。

【連絡経路】

①Ns 携帯 xxx-xxxx-xxxx

②ご家族：（自宅）xxxx-xx-xxxx （携帯）xxx-xxxx-xxxx

③訪問看護ステーション xxxx-xx-xxxx （携帯）xxx-xxxx-xxxx

④かかりつけ医 xxxx-xx-xxxx

⑤主治医：（●●医師） xxx-xxx-xxx